

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程アカデミックコースの学生および後期課程の学生に対して、前期・後期課程一貫の計画的な研究指導計画を策定し、実施する。	→ 「前期・後期課程一貫研究指導モデルの策定」「前期課程アカデミックコース学生の研究計画書の作成」	C	C			
2. 前期課程エキスパート学生に対する複数指導教員制 (副指導教員制) を効果的に実質化するための方法を検討する。	→ 「前期課程エキスパート学生および教員に対する副指導教員制に対するアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における複数指導教員制の実質化についての検討」「副指導教員の指名数」「複数指導教員による教育効果の分析」	C	C			
3. 講義科目 (特に前期課程エキスパートコース科目) に対する学生の履修期待と教育内容との整合性を確保するため、法学研究科に特有のシラバス・モデルの開発を図る。	→ 「法学研究科シラバス検討委員会 (仮称) の設置および法学研究科にふさわしいシラバスモデルの検討」「シラバスモデルの事前提示」「シラバスに対する学生の評価に関するアンケート調査の実施」	C	C			
4. 教育効果についての定期的な検証を実施するための手続を整備し、これを実施する。	→ 「各年度における教育方法と効果に関する学生・教員アンケートの実施」「大学院教務学生委員・副委員等と学生代表からなるFD協議会 (仮称) の設置」「拡大大学院問題検討委員会における教育効果に関する検討」「各年度における検討結果の研究科委員長への報告」	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					



## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4		
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★小項目6.3.3		
小項目6.3.4		
その他		

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★その他 (自由記述)	

## III. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

○中項目6.1でも指摘しましたが、6.3においても「目標」の進捗評価（「C」で低い）と「現状の説明」の「実施済み」「検証している」等の肯定的記述との間にずれがあるように思われます。両者の整合性について、検討が望まれます。

## 【学内委員】

○現状説明が6.3.4の最後の1文を除いて同じです。2010年度に実施したこと、実施しなかったことについて説明することが必要です。

○進捗評価はいずれも「C」であり、積極的な実行が望まれます。特に小項目6.3.4「教育効果の定期的な検証」は、教育課程や教育内容・方法の改善を図るうえで極めて重要であることから、早急な対応が望まれます。

○「C」の項目については、「改善すべき事項」に記述することが望まれます。

○小項目6.3.1については、前期課程が抜けています。

○シラバスについては、早急な結論が求められます。なお、シラバスの現状について記述することが必要でしょう。

○現状説明において課題が示されていますが、改善すべき事項への明示が必要ではないでしょうか。

○2006年度の認証評価においてシラバスについて「助言」を受け、2010年度7月に改善報告書が提出されました。簡潔にその内容を記していただく現状説明もより分かりやすいと思います。あり方について検討中とのことですので、検討結果が期待されます。

## 【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

## ○小項目6.3.2&amp;6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

## ○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的にも実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

## ○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目 6.3.1の＜現状の説明＞に、下記を追加。

「前期課程の学生についても、修士論文提出までに2回の、専門分野ごとに合同研究発表会を開き、複数の教員からなる指導を行なっている。」

○小項目 6.3.2の＜現状の説明＞に、下記を追加。

「シラバスについては早急な結論を求めるのではなく、慎重な議論を要するという声も多い。2010年度については、半数近くのシラバスが各回あるいは数回分をまとめた授業計画を公開している。授業内容を一括して要約的に記述したシラバスを加えると、全体の85%になる。さらに、2010年度からは法学研究科独自で、授業開始後一定期間内に履修科目の変更などが出来る制度を導入した。これによってシラバスによる事前の授業内容の公開自体がもつ限界を補う意味を持つものと考えられている。」

★

○小項目 6.3.3、につき、進捗評価をCからBに変更する。

○小項目 6.3.4の＜現状の説明＞に、下記を追加。

「大学院レベルでの教育成果の測定の方法について、定評がある方法があるとは言い難い現状があることを前提として、アンケートや院生会との懇談による意見聴取や、就職状況の評価、修了院生からの意見聴取などは行われており、検証を試みているが、十分とはいえないであろう。」